

## RoVoCoMo2のソースコードに関して

RoVoCoMo2フォルダの中にArduino用のソースが入っています。Arduinoでご利用になる場合はこのRoVoCoMo2のフォルダごと、Arduinoのスケッチ保存用フォルダに入れてからRoVoCoMo2.inoを起動してください。

なお、RoVoCoMo2は、**現在、開発段階であるため**、このアーカイブに含まれるすべてのファイル等に関して、CC BY-NC-ND（英: Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivs、日: クリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止）とさせていただきます。作品を複製、頒布、展示、実演を行うにあたり、著作権者の表示を要求し、非営利目的での利用に限定し、いかなる改変も禁止しています。

## RoVoCoMo2ビルドに必要な設定

Arduino IDEを使う場合は、Arduino IDEのインストールおよびEsp32やM5Stackが使えるような環境設定が必要です。さらに、RoVoCoMo2をビルドするために、以下の設定を行なってください。

1. 音声再生用のライブラリーをダウンロードして、  
<https://github.com/earlephilhower/ESP8266Audio>  
Arduinoのスケッチ保存フォルダの中のlibrariesフォルダに入れる
2. M5Stackで日本語表示するライブラリーを以下のサイトの説明を参考に入れる。  
<https://qiita.com/taront/items/7900c88b9e9782c33b08>
3. 同梱のファイルの、Arduinoとう名前のフォルダの中にあるRoVoCoMo2のフォルダをフォルダごとArduinoのスケッチ保存フォルダに入れて下さい。
4. RoVoCoMo2.inoをArduino IDEで開いて下さい。
5. ボード設定は図のようにして下さい。

**注意：Partition SchemeはMinimal SPIFFSを選んでください。**

```
ボード: "M5Stack-Core-ESP32"  
Upload Speed: "921600"  
Flash Frequency: "80MHz"  
Flash Mode: "QIO"  
Partition Scheme: "Minimal SPIFFS (Large APPS with OTA)"  
Core Debug Level: "なし"
```

6. 左上の2つめの「マイコンボードに書き込む」のボタンをクリックすると、プログラムのコンパイルが行われ、プログラムを転送されます。
7. binファイルを作る場合は、メニューの「スケッチ」の「コンパイルしたバイナリーを出力」を選択してください。

お問い合わせ等は、以下のアドレスまでメールを下さい。

micono@mac.com

謝辞：RoVoCoMo2は、メディアクラフトさん (<http://www.kumagaya.or.jp/~mcc>) が  
おこなった、ロビのココロなどの解析によりはじめて実現できたものです。この場をお借りしてお  
礼を申し上げます。